

のしろ児童館だより

小松市北浅井町へ29

TEL・FAX 22-6430

平成29年 9月号

とも子ちゃんシリーズ (10)

明日は、待ちに待った運動会です。小学校4年生のとも子ちゃんは、前の夜からそわそわしていました。なぜなら、とも子ちゃんはクラスで、かけっこが一番速いのです。だから「赤団」のリレーの選手に選ばれました。四年生から出場できる一番目立つ「団対抗リレー」の選手です。とも子ちゃんは、一年生のときから「4年生になったら、ぜひリレーの選手になりたい」と思っていました。「明日のリレーでは一番になって、お父さんやお母さんにいいところをみせたいなあ！」と思っていました。そこで、夕食の時にとも子ちゃんは「明日のリレーで一番になるから、ちゃんとしてね」と言いました。すると、お父さんは「とも子、一番になるのもいいけれど、それよりもっと大切なのは、みんなで楽しく協力して、助け合いながらすることだよ」と言いました。とも子ちゃんは「なんでお父さんは、わたしが一番になることをあまりよろこんでくれないのだろう」と、少しがっかりしました。

運動会がはじまり、プログラムもだんだんと進み、最後の「団対抗リレー」の番になりました。ここまでで赤団は、総合得点で2位になっています。リレーで優勝すれば、総合でも一位になれるかもしれません。とも子ちゃんのやる気も高まってきました。

スタートは、4年生の「男子」です。同じクラスの「鉄男」くんです。鉄男君は乱暴なところがあるので、とも子ちゃんは好きではありません。運動会の練習でも、足のおそい子をバカにしたことを言って、泣かせてしまいました。でも鉄男君は足が速いので、だれも文句は言えません。

ピストルがなって、鉄男君がスタートしました。うまくスタートして2番で走りだしました。しかし、カーブのところで、足がもつれて転んでしまいました。しかもヒザをぶつけてしばらくは起き上がりませんでした。走り出してもうまく走れません。「赤団」からはため息があがりました。中には「笑い声」さえ聞こえてきます。次のランナーだったとも子ちゃんは、思わず鉄男君のところへ走り出しました。そして鉄男君の横で「がんばって、あとはわたしがガンバルから、あそこま行こう」と声をかけました。他の選手たちはとっくにバトンタッチをして走っています。すると、赤団から「ガンバレ！」の声があがりました。ゆっくりでしか走れない鉄男君をはげまして、やっとバトンタッチの場所まできました。そこからとも子ちゃんはバトンを受け取り、走り出しました。もう、一位の選手は次の人にバトンタッチするぐらいまではなされています。とも子ちゃんは一生懸命走りましたが、差は少しちぢまっただけでした。上級生たちもガンバって走りましたが、最後まで赤団はビリを走りました。

閉会式も終わり、とも子ちゃんは家族のところへ行きました。とも子ちゃんが少しはずかしそうにしていると、お父さんは声をかけました。「お父さんは、今日ほどうれしい日はないよ。おまえは本当に一番だったね！」と言って、頭をなでてくれました。とも子ちゃんは、昨日お父さんが言っていた言葉の意味がわかりました、本当の一番とは、困っている人を助け、みんなで協力しあうことなんだということを知ることができたのです。